

同志社時代の山室軍平史料

——「雑記 第二号」——

室 田 保 夫

解説

はじめに

ここで紹介する表記の史料「雑記第二号」は山室家に襲蔵されていた龐大な山室軍平の日記類の一部に相当するものである。ここでいう「龐大な山室軍平の日記類」とは二〇〇六年に御令孫の山室信雄氏より同志社大学人文科学研究所に寄贈されたものを指している。また「雑記第二号」とあるように「第一号」が存在していたと推察されるが、現在、それは確認していない。したがって山室軍平の日記に類するものとして、渉獵の及ぶ範囲に

においては現存する最も古いものである。これは小簿冊を合綴したものであるが、綴じられた厚い表紙には「雑記 第二号 明治二十三年ヨリ明治三十二年マデ」と墨書されている。それぞれに綴じられた日記や小論の薄葉紙に山室独特の字体でもって認められている。今回、紹介するものは、上記史料の最初に綴じられているものであり、タイトルと日付の入った多くの小論が認められている。その意味では一般的な日記とはかなり趣が違い、むしろ小論集的なものである。その中から今回、紙幅の関係から最初から順に三三編を翻刻し紹介することとした。年代は一八九二（明治二五）年一月二十九日から翌年一月

一三日にかけてのもので、墨書にて認められている。

従来、この史料については同志社大学人文科学研究所編『山室軍平の研究』（同朋舎出版、一九九一）に収載された杉井六郎氏の「同志社時代の山室軍平」という論文中、「付 山室軍平日記『雑記 第二号』に見る」（一一七―一二二頁）において、それへの概観がなされているので、その全体像についてはそれを参照していただきたい。ただ、これらの小論について、杉井氏はタイトルの概要の紹介にとどまっており、その内容については触れられていない。生前中、氏は後学に託されていたこともあり、今回紹介させてもらうこととなった次第である。ちなみにこの史料の一部は戦前の『救世軍士官雑誌』（三〇巻六号）に紹介されている。さしあたり、同志社普通学校に入学し、この小論集を書くまでの山室の経歴について瞥見し、この背景をみておくことにしよう。

一 山室と同志社

山室軍平（一八七二―一九四〇）は地元である岡山県阿哲郡の弘業小学校を卒業すると、吉備郡足守町の杉本弥太郎家に養子に出されるが、一八八六年、軍平一四歳の時、家出を敢行し東京築地の活版工となって働く。その時代にキリスト教に接し、築地福音教会で洗礼を受けるに至る。築地時代、その教会の福音青年会活動の一環として徳富蘇峰の講演会が開催される。そのとき蘇峰の口から新島と同志社を知ることになる。一八八九年六月のことであるが、すぐに職を辞し、上洛し同志社で開催された第一回夏期学校に出席する。ここで初めて憧憬する新島の講演を聞くことになる。七月初旬、夏期学校が終わると、山室はこの時知己となった吉田清太郎や佐々倉代七郎とともに郷里に近い高梁に赴き、伝道活動に挺身する。久しぶりに帰郷し、その後約一カ月間、高梁の教会や講義所で説教をし、毎晩路傍伝道を行っている。また吉田清太郎の留岡金助を信仰に導くための徹底的な

救霊活動を知り、大いに刺激を受けたりしている。そして高梁から京都に帰る途中に、岡山孤児院に立ち寄り、石井十次を訪問する。これが初めての石井との出会いであった。

ここでの「同志社時代」とは一八八九年九月の同志社予備学校入学から、翌年の同志社普通学校への進学、そして同志社から出奔した一八九四年六月頃までをさしている。したがって、この史料は山室が同志社普通学校に学んでいた時に相当する。しかし入学したものの憧憬する新島は山室の入学後数カ月も経たないうちに他界する。山室の同志社での生活はきわめて苦しかった。そして信仰においても新神学の影響を受けて精神的にも動揺をきたしていた時である。将来の姿が見えない精神的にも苦難の時代でもあったが、換言すれば青春の「シュトルム・ウント・ドランク」時代とでも形容でき、そして彼が必死で自己のキリスト教を希求していた時である。そうした時に於いても平民伝道を畢生の事業として把握していた山室のキリスト教観や社会観は、当時から認め

ていた初期の文章からも窺うことが出来る。彼の畢生の事業が救世軍での活動であるとするなら、この史料はその入隊（一八九五年秋）の三年前に相当し、きわめて貴重な青春の記録でもある。年齢からいうと山室の二〇歳頃のものである。

二 その内容

次に今回紹介する中から彼が認めた小論を少し紹介しておくことにしよう。まず「労作之人」（明治二五年一二月二九日）であるが、ここには人間の労作について説かれている。すなわち「労作」の人とは「天職ヲ尽スノ人ナリ」、「不羈独立ノ人ナリ」、「強健不屈ノ人ナリ」、「罪ヲ犯サルノ人ナリ」、そして「一言以テ之ヲ掩エハ労作ノ人ハ神ノ子ト称エラレル、ニ足ルノ人ナリ」と断じ、労作の意味を説く。「労働者ヲ救フノ道」（二六年一月一〇日）においても、山室自身、「余ハ先日来、終ニハ理髪師トナリテ労働者ノ友タルコトノ極テ宜ニ合フガ

如キヲ感ゼリ」と記しているが、もちろんその職業については「適セル職業ヲ採ル」とし、将来、実社会に出て労働者として生きることの覚悟を認めている。またこの小論で具体的な生きる方策を論じている。たとえば「日学術講演会ヲ開テ労働者ニ切用ナル智識ヲ与フルコトニアリ」、「雑誌ヲ興シテ一方ニハ労働者ノ智徳ヲ進メ一方ニハ労働者ヲ代表シテ上中社会ノ人ニ対スルコトナリ」、「禁酒会ヲ興シ魔娼論ヲ唱エテ社会殊ニ下等社会ヲ改良スルコトナリ」等々であり、それはキリスト教を手段として、労働者への伝道と社会改良を意味していた。また「同業者ガ捧ル所ノ金品ヲ以テ老人孤児ノ為ニ尽シ貧窮ニシテ有望ナル青年ガ勉学ノ道ヲ開キ其他時ニ応シテ必用ナル事業尚数多アルベシ」というように、慈善的志向も看取できる。キリスト教が社会から閉じられた中にあるのではなく、生きた現実社会との接点、開かれた社会性を持つという視点を同志社時代から窺うことができる。

これと同様な小論は卒業後の生きる構想を述べた「将

来ヲ夢想ス」(二六年一月一日)にも窺える。「我ハ同志社ヲ終ルノ日、再ビ職工トナラン哉、活版屋可ナリ、洋服匠可ナリ、三年之ヲ学ンデ而シテ後ニ独立シテ之ヲ営マバ是ニ劳力ニ因テ自活ヲ得ルノ道開ケン。既ニ自活シ得バ不覇独立勤勉精勵漸ク一箇ノ大市民トナリ、同業者ヲ励マシ隣人ニ及ボシ時ニ及ンバ教会ヲモ新設シ雑誌ヲモ発兌シ、我信スル所ノ宗教主義ヲ主張シ、平民的道德ヲ拡張シ、日本ヲ挙テ世界ノ大国トナシ日本人民ヲ率テ大国民タラシムルニ至ランコトヲ期ス」と覚悟しているのである。

また「曲折論」(二五年二月三〇日)では「基督ノ精神ヲ抱テ商業界ニ入ルノ人モ起シ、新島先生ノ精神ニ学ンテ工業界ニ入ルノ人モ出ヨ、石井君ノ心術ヲ見テ農業家トナルノ人モ顕レヨ、エモルソン曰模倣ハ自殺ナリト」と論じるように、「真似」のない生来のキリスト教でもって、社会に出ることを希求するものとなっている。かかる視点は二六年一月九日の「日本魂ニ授洗スベシ」という小論にも窺える。「蓋シ所謂日本魂ハ日本正氣ノ

光華ナリ。之ヲシテ能ク果実ヲ結バシムル者ハ基督教ナリ」とあり、「日本魂ハ曰忠君 基督教ハ曰敬神」「日本魂ハ曰高義 基督教ハ曰仁愛」「日本魂ハ曰愛国 基督教ハ曰博愛」とあり、「日本魂」とキリスト教との関係を指摘する。そして「願クハ日本魂ノ俠骨ニ授洗シテ所謂吉田松陰ニ授洗セル底ノ活人物ヲ生ミ、花ヲシテ実ヲ結ブノ因トナルニ至ラシメンコトヲ」と論じる。

さらに時代を感じさせる小論もある。たとえば「自由主義」（二六年一月六日）という論文であるが、ここには内村や奥村の不敬事件等への言及が披見できる。「日本ニハ未ダ自由論、真正ナル自由論ノ行ハル、コトナキナリ。彼ノ選挙干渉ノコトヲ見ヨ、内村鑑三氏ノ不敬事件ヲ見ヨ、久米邦武氏ノ神道論ヲ見ヨ、奥村禎三氏ノ博愛論ヲ見ヨ、何レカ真正ノ自由ヲ冒スモノニアラズトセンヤ」と自由について論じる。そして「然レトモ最モ嘆息スベキハ之ニ対スル世人ノ腰ノ弱キコトニアリ、当局者ノ腰ノ弱キコトニアリ。……略……嗚呼日本ハ実ニ真正ニ自由ノ為ニ真理ノ為ニ大働スルノ士人ヲ要ス。殊ニ

真正ニ自由ノ為ニ真理ノ為ニ大働スル腰ノ強キ士人ヲ要スル最モ切ナリト云フベシ」と有為なる人物の輩出を希求する。

また二六年一月一日の「雑感」において「今後ノ社会ニハ『平凡ノ偉人』踵ヲ繼テ頭ハルベキナリ、平凡ノ偉人トハ何ゾヤ。攻城野戦ノ活劇ヲナサズ、拔山蓋世ノ技量ヲ揮ハズ、一日又一日循々トシテ職分ノ大歩ヲ跬歩ス之ヲ一日見ルニ何ノ秀ル所ナシ、之ヲ一月ニ徴スルニ何ノ異ル所ナシ、之ヲ一年ニ察スレバ稍人ニ過ルモノアリ、之ヲ十年ニ觀、之ヲ生涯ニ觀ズレバ嗚呼吾人ハ其唯天ノ階シテ昇ルベカラザルガ如キヲ見ルノミ。新島先生ノ如キ是ナリ。富蘭克林ノ如キ是ナリ」と「平凡の偉人」という言葉で表しているが、山室が終生、「平民」「民衆」という言葉を使用していく素地が窺われる。

このように、二〇歳頃から山室は労働者伝道のことを真剣に考え、そして将来、彼等に対して魂のある言葉でもって伝道を構想していた。そのために彼等と同じ目線に立つためにも、労働者として生きる覚悟が多くの文章

の端々に表象されている。この史料は山室の同志社時代を解明する重要な史料ばかりではなく、救世軍に入隊する前の思想、ひいては生涯を理解する上においてきわめて重要な史料である。

凡例

○旧漢字は原則として常用漢字に改めた。

○句読点については原文を尊重しながらも適宜付した。

○「ㄱ」「ㄴ」「ㄷ」等の合字（合成仮名）については、

「コト」「シメ」「トモ」等と表記した。

○西洋人名は、中黒点を補い表記した。原文の傍線は残した。

○明らかな誤字・脱字と思われるものは訂正した。

○文字に疑問が残る場合は「カ」を附して傍注した。

○判読不明なものについては□とした。

○文章の多くに傍点や傍線が付せられており、また上欄外には書き込みが所々みられるが、それらについては今回、翻刻の対象としなかった。

【史料】

人生ノ第一義

二十五年十二月二十九日

梅田源二郎將ニ九州ニ行カントス。門生ニ説クニ人生ノ第一義ヲ以テス。大学カ中庸カ論語カ近思録カ、否、単ニ春秋、元年春王正月ノ六字ノミ。而シテ此レ実ニ當時ニ於ル人生ノ第一要義ニテアリシナリ。左ラバ現時ニ於テハ如何、今後ニ於テハ如何、天ニ在ス我儕ノ父ヨ、此ナリ此レ即チ現時及今後ニ於ル人生ノ第一要義ト看做スベキモノ。

何故カ。

今後ノ時代ハ増々人間ノ至情ヲ挙テ皇天上帝ニ奉事スベキノ時代ナリ。之ナクンバ到底制御ニ難キノ時代ナリ。而シテ天ニ在ス我儕ノ父ヨテフ語程最モ能ク皇天上帝ト之ニ奉事スル所以ノ方法トヲ教示スルモノナケレバナリ。既ニ天ニ在スト云フ其至上者ノ靈ナル者ニシテ之ニ奉事スル亦須ク靈ト真トヲ以テスベキコトハ明白ナルベシ。我儕ノ父ト云フニ至リテハ高絶聖絶実ニ人間宗教心最上

極度ニ達セルモノ。

猶太国ノ使命ハ真正ノ宗教ヲ天下ニ紹介スルニアリシナリ。而シテ其宗教上ニ於ケル思想ニ二大變遷アルヲ見ル。

(一) 律法ノ時代、神ヲ主トシ人ヲ僕トス。稍々遠カリ過ルノ傾アリ。

(二) 預言者ノ時代、神ヲ夫トシ人ヲ妻トス、稍近キ過ルノ傾アリ。

(三) 基督ノ時代、神ヲ父トシ人ヲ子トス、遠カラズ又近カラズ。

遠カラズ近カラズ故ニ能ク肅然トシテ敬事スベク欣然トシテ信賴スベシ。信仰ノ生涯是ニ於テカ見ルベク祈祷ノ生涯是ニ於テカ顯ルベシ。之ヲ人生ノ第一義ト云フ何ノ不可ナルコトカアラン。

秘藏的精神

二十五年十二月廿九日

兒ヲ養フテ足地ヲ踏マシメザルニ至ルモノアリ、柔弱用ニ堪エズ。女ヲ育シテ所謂箱入娘トナシ置ク者アリ、却

テ多ハ無節操ナリ。柔劍術、生花、茶立ノ秘伝ヲ藏スル者アリ、停滞シテ世ヲ益セズ。嗚呼此レ秘藏的精神ノ弊害ニアラズヤ。

流ル、水ハ腐ラズ、不絶開閉スル戸ニハ蟲付カズ、寧口如カンヤ、盤根錯節ノ間ニ其利鈍ヲ試ムルニハ。

基督教亦此秘藏的精神ノ害スル所トナルコトナキカ。

(一) 宗教ト學術ハ夫婦ノ如シ、神ノ合セ玉フル者ハ人之ヲ離スベカラス。然ルヲ古來學術ト宗教ノ兩立セズト誤解セラル、場合ノ極テ多カリシ所以ハ何ゾヤ。固リテ輕薄ナル学者ノ浮説ニモ因スルトハ言エ、又大ニ宗教道徳ヲ秘藏珍重スルノ余之ヲシテ難難攻撃ノ衝ニ立タシメザリシ所以ニ因ルニアラズヤ。

(二) 基督教ノ本旨ヲ蔽掩シ去ルニ至リタルモ亦同ク此精神ノ余弊ニ因ルニアラズヤ。

天主教ハ聖母天使聖人祭司等ニ因リテ仲保セラレテ始テ神ニ至ル之レ余リニ持体ブリタルモノニアラズヤ。

新教ト雖トモ基督ノ仲保ヲ重ンズルノ余リ既ニ父ニ至リテ後モ尚仲保者ヲ尊重シ、尊重スルノ余、仲保者ヲ拳テ

父ト均シトシ、其異同ヲ弁ゼザルガ如キハ豈ニ開宗者ノ本旨ヲ誤ルモノニアラザルナキカ。

奈翁ニ名画ヲ寄スル者アリ、翁直ニ之ヲ博覧会場ニ送ル。其人怨ム、金ヲ投シテ之ヲ購ハント欲ス。翁ノ曰斯カル名画ハ衆人ニ示シテ奮起ノ料トナスニ如カズト、丈夫此般ノ慨アルヲ要ス。

労作之人

二十五年十二年廿九日

我父ハ今ニ至ル迄働キ玉フ我モ亦働クナリ。其神ニ対スル觀念既ニ己ニ高シ、其人ヲ觀ル亦甚ダ異ナリト云ハザルベケンヤ。然レトモ是実ニ基督ノ基督タル所以、基督教ノ基督教タル所以ニアラズヤ。

(一) 労作之人ハ天職ヲ尽スノ人ナリ。人生レテ必ズ何カ為シ得ルノ手ト為サルベカラザルノ使命ヲ有ス。五十金ト十金トハ問フ所ニアラザルモ兎ニ角全力ヲ尽シテ為スベキ事ヲ為サルベカラズ。主曰爾曹命ゼラレタル所ヲ為シ終リタル時ニモ無益ノ僕為スベキコトヲ為シ

タリト云エト、況ンヤ為スベキコトヲモ為サズシテ何ノ面目カ天地ニ對セン。

(二) 労作ノ人ハ不羈獨立ノ人ナリ。パウロノ所謂己ノ麵麴ヲ食フモノ、自活自營、人ニ求ムル所モナク、他ニ屈スルノ必用モナシ。蒼天ヲ仰キ厚土ヲ踏ミ昂焉トシテ世界ニ立ツベシ。

(三) 強健不屈ノ人ナリ。持ル者ハ増々加ヘラレ持ヌ者ハ持テル者ヲ取ラルベシ。人間ノ機關ハ用ユルニ從フテ發達ス。働人ノ強健ナルハ天ノ働ニ報ヒ玉フ所以ノ一大報酬ナリ。

(四) 罪ヲ犯サルノ人ナリ。閑暇ナル頭腦ハ魔鬼ノ工場ナリ。何モナスコトナクシテ惡事ヲナスニ至ル、只労作ノ人ハ即チ然カラズ。

(五) 一言以テ之ヲ掩エハ労作ノ人ハ神ノ子ト称エラル、ニ足ルノ人ナリ。カライル曰労作ハ神聖ナリ、真正ノ労作ハ即チ宗教ナリト筋骨ヲ勞シ肢体ヲ役シ日夜労作ヲ之レ勤ムルノ人ハ自ラ直截トナリ、真実トナリ、質朴トナリ、温良トナル。所謂呼吸直ニ皇天ニ達スルニ至ルモノ、

以テ神ノ子ト称セラル、ニ於テ何カアラン。オータル・スコット終生、働ク人ト云フヲ以テ誇トシタリト旨アル哉。

我ハ福音ヲ恥トセズ

二十五年十二月三十日

(一) 我說ク所ハ世人ノ見テ以テ迂遠ニシテ事情ニ關ナリトスル所ノモノナリ。何トナレバ義ヲ取り仁ヲナスガ為ニハ見ス／＼名利ヲ擲タザルベカサルカ如キコトモアレバナリ。(二) 我說ク所ハ世人ノ見テ以テ陳腐珍ラシカラズトナス所ノモノナリ。何トナレバ是レ數千年來義人傑士ノ悉ク皆称道シタル所ナルノミナラズ、彼ノ盜賊姦淫者スラモ尚能ク其真理タルヲ認メタル所ノモノナレバナリ。(三) 我說ク所ハ世人ノ見テ以テ窮屈聞クニ堪エズトナス所ノモノナリ。何トナレバヨシ其道ヲ行フガ為ニ己カ名利ヲ捨テザルヲ得ベキニモセヨ、窮屈ナルガ為ニハ殆ンド閉口スベケレバナリ。陳腐ナルハマダシモ、行ヒ難キニハ困却セザルヲ得ザルベケレバナリ。

然レトモ此福音ハ実ニ箇人ヲ救ヒ天下ヲ救フ神ノ大能ナルヲ思エバ、我豈ニ此位ノコトニ屈託シテ此大道ヲ言說セザルヲ得ンヤ。

青年ト自制

二十五年十二月三十日

保羅ハ殊更ニ青年ニ自制ノ必要ナルヲ言ヘリ(多二〇六) 何故ニ之ヲ言エリシカ、青年ハ活氣ノ塊ナリ、英氣ノ備ル所ナリ、熱火ノ化身ナリ。未來ヲ夢想スル者、前後ヲ顧ミズシテ猛進スル者、經驗ナキガ故ニ又經驗ノ為ニ牽制セラレザルモノ、名望ナキガ為ニ失フ心配ナクシテ飛廻ルモノ、其輕率無謀ノ言行ナキヲ欲スルモ抑エ難ニ自制ノ必要是ニ於テカ見ユ。

殊ニ青年ノ自制ヲ要スル所ハ淫慾ナリ、人ノ妻ヲコソ、犯サレ、娼婦ニコソ交ハラザレ、小説本ニ対シ妄想ニ対シ心ニ淫ヲ思ヒ私淫ヲナスカ如キコト少カラズ。制セズシテ可ナランヤ。

次ニ制スベキハ食欲ナリ。余ハ今ニシテ此卑近ナル情慾

ノ却テ最モ制シ難キコトヲ見ルナリ。之ガ為ニ金錢ヲ浪費シ千金ノ身ヲ傷ケ、種々ノ弊害ヲ誘ヒ起スコト極テ多シ、警メテ又戒メザルベケンヤ。

曲折論

二十五年十二月三十日

蠶食桑而其所吐者糸、非桑也。蜂采花而其所釀者蜜、非花也。牛草ヲ食エバ草、乳トナリ、三稜鏡ヲ経レハ日光モ七色ヲ現ス、人間ノ事業亦此般ノ曲折ヲ要ス。

一人会社ヲ始ムレバ全国会社熱ニ浮カレ、一人鉄道ヲ云エバ全国鉄道熱ニ浮カル新聞雜誌ノ発兌ト云ヒ、俱樂部青年会ノ建設トナリ、慈善事業トナリ、其他幾多ノ事業一人之ヲ始ムレハ万人之ヲ和ス。其精神ヲ学バントハセズシテ其皮相外形ヲ学ブ此豈現時日本社会ノ通弊ニアラズヤ。

曲折アレカシ。基督ノ精神ヲ抱テ商業界ニ入ルノ人モ起レ、新島先生ノ精神ニ学シテ工業界ニ入ルノ人モ出ヨ、石井君ノ心術ヲ見テ農家トナルノ人モ顕レヨ、エモル

ソン曰模倣ハ自殺ナリト。

義人ノ信仰

二十五年十二月三十一日

何事ヲモ信ゼザル人ハ何事モナキ人ナリ。誰ヲモ信ゼザル人ハ其人モ亦信ズルニ足ラザルナリ。(ニユーマン・スマイス)為スアルノ人、価値アルノ人ハ必ズ何カ信ズル所アルノ人ナリ。

疑フ者ハ風ニ撼サレテ飄ル海ノ波ノ如シ。懷疑ナキノ人ハ進歩ナキノ人ト雖、然モ群疑滿腹何ノ信ズル所モナキノ人ノ如キハ決シテ成效ノ人ニアラズ。

芥種ノ信仰ハ山ヲモ移スベシ。基督教会ニ現ハレタル偉人ハ扱テ置キ東西古今ノ義人ニ付テ之ヲ觀ルニ何レカ信仰ノ人ニアラザラン。所謂義人ハ信仰ニ因テ生ル者。

彼等ハ如何ナル信仰ヲ持チタリシカ。時所位ニ因リテ甚ダ多クノ差異ナキニアラズト雖、亦彼等ノ何レニモ通ズル信仰ナキニアラズ。

曰天命ナリ。人間以上ニ何カ世界ヲ照臨スルノ活物アリ

テフ觀念是ナリ。曰唯有皇天皇土知、曰天德ヲ我ニナセリ、曰天ナリ人ニアラズト。古來義人志士一モ此念ナキモノハアラズ。

曰自家ノ使命ナリ。既二天ヲ信ズ、從テ又天ガ自家ニ命ズル所ノ天職ヲ認メズンバアラズ。胸ヲ撫シテ曰天ハ我ニ何ヲ為サシメントシ玉フカ、曰是レ我天ニ対スル所以ノ職人カナリト。

曰真理ハ最後ノ勝利者タルコト是ナリ。曰天定テ後人ニ勝ツトヨシ真理ガ最後ノ勝利者タルヲ信ズル能ハザル者モ、少クトモ善ノ善タルコト、正義ノ正義タルコトヲ確信セズト云フコトナシ。

濃緑万枝紅一点、動人春色不須多、量ニアラズシテ種ニアルノミ。既二天ヲ信ズ、既二己ヲ信ズ、善ノ善タリ正義ノ正義タルヲ信ズ。宣ナリ其能ク自ラ動キ又能ク天下ヲ動カスニ至リタルヤ。

聖書ニ曰義人ハ信仰ニ因テ生クト、信仰ナキ者ハ以テ義人タルコト能ハズ。

無邪氣ナル戯樂

二十五年十二月三十一日

之ヲ聞ク昔者王陽明諸諱ヲ善クス、一度ハ之ヲ制シテ沈默嚴肅人トナラントセシカトモ、終ニ再ビ素ノ快活靄然ノ人トナルヲ禁ズル能ハザリト云フ。

人ニハ各天性アリ。王陽明風ノ天性ヲ受タル人々ハ如何ニ寡言默然ノ人トナラントスルモ蓋シ難シ。

余ノ天性モ亦或ハ此般ノ天性ニアラサルナキカ、幾度カ頑骨皴面堅苦數キ清教徒のノ人トナラントセリ。然レトモ終ニ之ヲ全フスルコト能ハザルナリ。

今ニシテ悟リヌ、只天性ニ任スヘキノミ。天性ニ任セテ笑談諧謔スルトモ之ガ為ニ罪惡モ犯シ不義ニ陥ルガ如キコトナク、信仰ヲ害シ敬虔ノ心ヲ妨クルガ如キコトナクンバ何ノ不可ナルコトカアラン。

虞刺士斯頓曰牛津ノ学生ハ最モ愉快ヲ尽スノ時ニ於テモ、以テ祈祷ノ家ニ入ルベカラザルモノナシト唯是ノミ。

雅量

二十五年十二月三十一日

余ニ著キ嫉妬心アリ、余ニ著キ争気アリ、余ニ著キ偏情アリ、人ノ善ヲ認ムルコト晩ク、人ノ美ヲ挙ルニ懶シ、人ニ和ラザレバ怒ル。

寧ロ天高フシテ鳥ノ飛ブニ任セ海濶フシテ魚ノ躍ルニ任スガ如キノ大雅量アランヤ。即チナシト雖誠心誠意之ヲ求メテ得ルニアラズンバ焉ゾ神ノ人タルニ足ラン、焉ゾ大ニ神ノ榮ヲ揚ルノ人トナルニ足ラン。ソレ雅量ナキノ人ハ三家村裡ノ長タルコトダニ難シ、寧ロ大ニ天下ニ伸ブルガ如キニ於テヲヤ。

陳伯獻ガ林滄ヲ評スルノ語ニ曰賤者即之不知其為貴、卑者即之不知其為尊、愚不肖即之不知其為賢且智独非意相手者即之、始和其凜然不可犯也ト。円通、円満、完全、周到、只僅ニ硬骨不屈ノ一角ヲ他方ニ存ス。所謂、円クトモ、一角アレヤ人心、余リ円キハ転ロヒ易キゾナルモノ。嗚呼主ヨ我ニ此心緒ヲ養フヲ得サセ玉ヘ。

神ノ榮光

二十五年十二月三十一日

天ハ神ノ榮ヲ現ハセリ。地ハ神ノ譽ヲ歌エリ禽獸蟲魚何物カ天父ノ恩寵ヲ証シセザランヤ。

人ハ神ノ榮ヲ顯ハセリ。花ノ如キノ幼兒然リ、鉄ノ如キノ丈夫然リ、美人然リ、老人然リ、凡ノ天真自然ニシテ善良ナル者ハ皆然トス。一步ヲ進メテ之ヲ言エバ惡人モ亦神ノ榮ヲ挙ルニ相違ナキナリ。然リ彼ガ惡ヲナシテ失敗スルノ跡、彼ガ不義ヲナシテ零落スルノ様、彼ガ悲嘆彼ガ苦悩何レカ神ノ榮ヲ顯ハサバラン。所謂神ノ真我偽ニ因テ顯ル、モノ（羅三〇七）

然レトモ惡ヲ為シ不義ヲ企テ、零嘆シ悲嘆シ苦悩シ蹉跎シテ其結果ガ計ラズ。左道ノ殷鑒トナリ、人目ニ晒サルノ塩柱トナルガ如キハ豈ニ天父ノ聖慮ナランヤ。人間本懷ナランヤ、要ハ只天真ニ自然ニ爾曹ノ善行ヲ以テ天ニ在ス父ノ榮ヲ崇メシムルニアルノミ。

法律以外

二十五年十二月三十一日

現世ニ処シテ法律条令ニ制裁セラレツ、世ヲ渡ル者ハ陋ナリ。彼ハ既ニ社会一般ノ道德ヨリモ卑劣ナル性行ヲナシツ、アルノ人ナレバナリ。人須ク法律以外ニ曠歩スルノ人トナルベシ。

然レトモ此只世ノ王国ノ民トシテ然ルノミニアラズ、神ノ王国ノ民タル者ニ於テモ亦同様ノ光景アルヲ認メズニハアラズ。

固ヨリ神ノ国ノ法律ハ世ノ王国ノ法律ノ如ク然リ緩慢守リ易キ者ニアラズ、此故ニ今日遽ニ之ヲ悉皆踏ム能ハザルノ人ナレバトテ直ニ下賤卑陋ノ人トハ評スル能ハザルナリ。否却テ容易ニ守リ能ハザレバコソ此法律以外ニ逍遙スベシト云ハル、ナシ。

我願フ所ノ善ハ之ヲナサズ。我願ハザル所ノ惡ハ之ヲナセリト云ヒ、心ニハ願フナレトモ肉体弱キナリト嘆ズ。實ニ一時ニ神ノ国ノ法律ヲ躬行実践セントスルノ人ガ達スル所ハ古來只此唯一ノ落胆沼ノミ、只此唯一ノ絶望城

ノミ。

之ヲナス如何。保羅教テ曰爾曹靈ニ因テ歩ムベシ、左ヲバ肉ノ慾ヲナスコトナカラン。此間ニ処スル、只日々千万齋ナラザル法律儀文ニ拘ランヨリモ寧ろ單ニ積極的ニ心ヲ開ヒテ善ヲ求メ義ヲ追ヒ天父ヲ仰テ天地浩然ノ靈氣ニ一和シテ進ムニアルノミ。此自修鍛鍊ノ大乘経ナリ、神ノ新約ノ教ナリ。

基督曰百合ノ花ハ如何ニシテ育ツカヲ思ヘト。太田道灌曰春ノ野ニ角クム沢ノ葦辺ニハ繋ガヌ駒ゾ離レザリケルト。善ク騎ル者ハ手鞭ヲ携フ然レトモ以テ万一ニ供スルノミ、敢テ刻々之ニ拘束セラル、ニアラザルナリ。吾人ガ神ノ王国ノ民トシテ其法律條令ニ於ケル又宜ク斯クナルベシ（羅三〇二十一）

不徳不信の宗教

二十五年十二月三十一日

馬可伝耶蘇教故郷ニ到ルノ條ニ曰彼等ノ信ゼザルヲ怪ミ云々（六〇六）ト。真正ノ宗教ハ必スヤ不徳不信のノ真

理ヲ含有ス否、含有セザルベカラザルナリ。

(一) 人稍モスレバ思ヘラク宗教ハ學術ト両立セズト、果シテ此両立セザルベキカ、蓋シ之アラン。一二ハ宗教家ノ固陋ニ因リ、一二ハ藝術家ノ輕佻ニ因リ、然カリ認メラレタルコトモヤアラン。然レトモ若シ夫レ愛神愛人、宗教道ノ本領真髓ニ至リテハ決シテ學術ト両立セズト云フヲ以テ阻ミ得ベキモノニハアラス。

(二) 人或ハ又思ヘラク宗教ハ活世界ノ活務ト両立セズト、若シ宗教ヲシテ繁雜ナル儀文ナラシメ宗教ヲシテ偏屈ナル寺院の生活ニアラシメバ或ハ比言訳モ用ニヤ立タン。然レトモ宗教ハ斯ノ如キ者ニアラス。実務モ亦其中ニ宗教道德ノ分子ナクンバ、ノアノ児孫ノバベルノ塔ノミ、賽ノ河原ノ小石塔ノミ、働クノミ、金ヲ得ルノミ益ナキナリ、利ナキナリ、人ノ劳作ハ云フニ価セズ。

故ニ真正ノ宗教ハ決シテ學術実務ト両立セザルモノニアラス。寧ニ相待テ進ムベキモノノミ、否待タズンバ其真ヲ保ツコト能ハザルモノノミ。世若シ尚真正ノ宗教道德ヲ受入ル能ハズト云フモノアラバ余輩ハ基督ト共ニ其理

由ヲ疑ヒ怪ンテ可ナリ。トマス・ア・ケンピス曰潔キ良心ハ堅固ナル信仰ノ基礎ナリ。独人ルタルド亦曰神ヲ信スルコトハ學術ニアラズ道德ナリト。唯道德ナキ人、道德ヲ厭フノ人、道德ヲ□視スル人ノミ、能ク真正ノ宗教、宗教ノ真髓ヲ疑ヒ且信ゼザルコトヲ得ベキナリ。

将来ヲ夢想ス

二十六年一月一日

我ハ同志社ヲ終ルノ日、再ビ職工トナラン哉、活版屋可ナリ、洋服匠可ナリ、三年之ヲ学ンデ而シテ後ニ独立シテ之ヲ営マバ是ニ勞力ニ因テ自活ヲ得ルノ道開ケン。既ニ自活シ得バ不霸獨立勤勉精勵漸ク一箇ノ大市民トナリ、同業者ヲ励マシ隣人ニ及ボシ時ニ及ンバ教会ヲモ新設シ雜誌ヲモ發兌シ、我信スル所ノ宗教主義ヲ主張シ、平民の道德ヲ拡張シ、日本ヲ拳テ世界ノ大國トナシ日本人民ヲ率テ大國民タラシムルニ至ランコトヲ期ス。

(一) 自ラ先ツ直截朴実勤勉刻苦ノ労働者タルコト

(二) 労働者間ノ一伝道者トシテ宗教道德ヲ宣伝スルコ

ト

(三) 労働者間ノ一教育者トシテ日用必需ノ実学ヲ教ユルコト

(四) 労働者ノ代表者トシテ疾病難苦ヲ言現スコト

(五) 労働者間ノ一改革者トシテ千弊万害ヲ革新スルコト

彼ノ専門伝道者ノ弊ハ斯カル切角ノ善事業モ何カ一種ノ俗事業トナリテ之ヲ衣食ノ方法トナスニ至ル。然カノミナラズ、自ラ一箇ノ実務ヲ持タズシテ宗教道德ヲ宣伝スルノ弊ハ其ノ説ク所何時シカ小面倒ナル哲学的空論トナリテ人ヲ離レ世ト隔ルニ至ラズンバアラズ。

若シ余ガ此般夢想ノ模型ヲ求メバ如温武雷士ハ是ナリ、富蘭麒麟ハ是ナリ、倫古龍ハ是ナリ。

相談相手

二十六年一月一日

知識アリ徳アルノ人ニ八万人万事ヲ相談ス。然レトモ知識ノミアルトモ徳行ノミアルトモ未ダ以テ満足ナル相談

相手タルニ堪エズ。

既ニ知識アリ以テ事ヲ判スルニ足り既ニ徳行アリ以テ信ヲ受ルニ足ル。是ニ於テカ始テ能ク人ノ相談相手タルノ地位ニ立ツコトヲ得ベシ。

如温武雷士氏ガ商工社会ニ於テ著シキ信用ヲ得、武雷士ダニ承知セバ我輩異存ナシト云ハル、ニ至リシガ如キ、若クハ君ハ富蘭麒麟ニ此事ヲ相談セシヤ。彼ハ何ト云ヒシゾトハ一時米国社会ノ通語ナリシガ如キ皆所謂相談相手ナル者ヲ實際上ニ顕ハセルモノニアラズヤ。

社会ハ実ニ此種ノ人ヲ要ス、此種ノ人ハ社会ニ於テ最モ尊ムベキ地位ヲ占タル人ト云フベシ。

国民之父

二十六年一月五日

政治学者ノ語ニ曰国トハ家テフ文字ヲ大書セル者ヲ云フト。古代政治ハ皆家長政治ナリシナリ、既ニ家長政治ナリ。当時ニ於テハ僅ニ一家ノ長ニ過ザリシ者モ後世ヨリシテ之ヲ見レバ実ニ一邦家ノ祖先、父母タルニ至レル如キ固

ヨリ左モアルベキコトト云フベシ。

アブラハムノ猶太ニ於ケルガ如キ蓋シ其一例ナリトス。

日本古代ノ王室ガ日本ニ於ル亦豈ニ此種ノ關係ニアラザルナキカ、彼等ハ一家ノ政治ヲナセリ、一家ノ伝道者タルニ地位ニ立テリ、而シテ其流風余音ハ延テ千万世億万人ノ上ニ及ブ。

今代ノ人ト雖トモ亦豈ニ後世ヨリシテ斯ノ如キニ見ラル、如キ人ナシトセンヤ。誠ニ能ク其眷族妻孥ヲ今日ニ化スモノハ焉ゾ知ラン。一邦国一邦家ヲ他日ニ化スル人ニアラザルナキヲ。

人宜ク志ヲ此般偉大遠大ノ点ニ立ツベシ。目前姑息ノ利害ノミ汲々タルガ如キハ蓋シ陋ナリ。

自由主義

二十六年一月六日

日本ニハ未ダ自由論、真正ナル自由論ノ行ハル、コトナキナリ。彼ノ選挙干渉ノコトヲ見ヨ、内村鑑三氏ノ不敬事件ヲ見ヨ、久米邦武氏ノ神道論ヲ見ヨ、奥村楨三氏ノ

博愛論ヲ見ヨ、何レカ真正ノ自由ヲ冒スモノニアラズトセンヤ。

然レトモ最モ嘆息スベキハ之ニ対スル世人ノ腰ノ弱キコトニアリ、当局者ノ腰ノ弱キコトニアリ。奥村氏ノコト如何、久米氏ノコト如何、内村氏ノコト如何、選挙干渉ノコトノ如キハ随分正々堂々ト之ヲ争ヘルモノニ似タリト雖、亦是多勢ヲ頼ム烏合ノ衆ノミ。嗚呼日本ハ実ニ真正ニ自由ノ為ニ真理ノ為ニ大働スルノ士人ヲ要ス。殊ニ真正ニ自由ノ為ニ真理ノ為ニ大働スル腰ノ強キ士人ヲ要スル最モ切ナリト云フベシ。

教界ノ大井川

二十六年一月七日

昔ハ大井川徒洗以テ渉ルベク橋以テ架スベカリシモ渡場ハ殊更ニ之ヲ深クシ、架橋ハ断シテ之ヲ許サズ。行人ヲシテ是非共人肩ニ頼ラザルベカラザラシメタリト云フ。神ハ父ナリ愛ナリト唱エナガラ尚其間ニ同情ヲ表シ、天父ニ懇願シ呉ル、仲保者ヲ要シ、罪ノ赦ヲ求ムルニモ祈

禱ヲナスニモ感謝ヲナスニモ聖靈ヲ受ルニモ一ニ此仲保者ニ之レ頼ラザルベカラスト云フガ如キハ、此豈ニ大ニ乃祖ノ教義ニ違フモノニアラザルカ。

放蕩児、父ニ帰ルノ譬ヲ讀ミ又細ニ新約ノ教ユル所ヲ玩味シ来レバ吾人ハ所謂贖罪、仲保、救済ノ教理ガ終ニ一箇ノ基督教界ノ大井川タルヲ認メズンバアラス。

基督教徒ノ新動機

二十六年一月七日

基督ハ神ノ子ナリト信ゼヨ、聖書ハ神ノ語ナリト信ゼヨ、基督ノ血ニ因リテ救ハル、ト信ゼヨ、何ヲ信ゼヨ、力ヲ信ゼヨ、信ゼハ直ニ救ハルベシ、信ゼズンバ即チ滅ブベシ、滅ビハ即チ地獄ニ陥ラン、救ハレバ即チ天国ニ入ラント、斯ノ如クニ信ズル以上ハ如何デカ寸時モ道ヲ人ニ宣伝セズシテ安ンズルコトヲ得ンヤ。水ニ弱ル、ノ人ヲ救フガ如ク、死ニ瀕スルノ人ヲ引出スガ如シ。熱火常ニ炎々タリ活氣常ニ充溢ス。

然レトモ今ヤ此信仰ハ漸ク教徒ノ心中ヨリ消エ去レリ。

之ニ代ハルヘキ動機ハ何ゾ。

基督ハ完人物ナリ、人正ニ斯ノ如キナルベシ。此一信以テ基督教徒ノ新動機トナサント欲スル者アリ、然レトモ余ハ其成効ヲ危ム。余ガ取りテ以テ基督教徒間ノ新動機トナサント欲スル者ハ此ナリ、曰爾國ヲ臨ラセ玉ヘ。爾國ヲ臨ラセ玉ヘトハ決シテ新奇ナル語ニアラス、然レトモ此最モ有力ナル動機又刺激物。

余ハ今マ未ダ其詳ナル理由ヲ演繹スルコト能ハス。然レトモ然カ信ズ。而シテ此信仰ニ向フテハ清教徒ガ政治上ヨリ之ヲ達セントシタルニ倣フコトナク直ニ万般人事ノ上ヨリ之ヲ始ムヘキヲ感ズ。

雜感

二十六年一月九日

ホイットフキルドハ单独ニ奮戦セリ、故ニ其成効ヲ一時ニ見シノミ。ウエスレーハ即チ団体ヲ作り経綸ヲ画シテ天下ニ向エリ、而シテ效ヲ数世ノ間ニ収ム。余輩ハウエスレータラザルベカラス。

チヤンニングノ著書ニハ他ノ人々ノ言語ヲ引証セルガ如キコトナク常ニ自説ノミヲ吐出シタルト聞ク。余輩モ亦受売ニアラズシテ自家ノ玩味咀嚼セル所ヲ宣伝説話セザルベカラズ。

格朗空ハ天ヲ畏レテ良心ヲ手腕ニ運用スルノ鉄騎ヲ教養セリ。吾人モ亦此般ノ人ヲ生ンデ天下ヲ改革セザルベカラズ。

スマイルスハ百余ノ勞役者ノ為ニ自助論ヲ講ゼリ、吾人亦日本ノ勞役者ニ向ツテ此般平民的道德ヲ宣伝セザルベカラズ。巴里二年少法律學者パウ・フェルデールアリ。富貴ト學オトヲ擲チテ自ラ紙屑拾トナリ、而シテ紙屑拾ノ社会ニ一大改革ヲ与エタリ。吾人亦勞役者ヲ救フガ為ニ自ラ勞役者トナラザルベカラズ。ピーチヨルハ説教壇上ヨリシテ天下ノ時事ヲ論ゼリ、余輩モ經世家ノ見識ヲ抱テ日本ノ人民ヲ大國民トナサンガ為ニ伝道セザルベカラズ。

俠者ノ為ス所ハ上ヨリ下ニ金品ヲ投ゲ与フルニアリ。仁者ノ為ス所ハ下層ニ入りテ彼ノ為ニ彼ト共ニアリテ之ヲ

救フニアリ。余輩ハ仁者トナラザルベカラズ。

箇人伝道

二十六年一月九日

昨夜共励会組織ノ相談会ニ臨ム。別課神學生早瀬君ノ曰在学中ハ課業アレハ平生校内伝道ヲナスノ機会アルナシ。只土曜日ノ或時間ト日曜日ノ午後トヲ以テ専ラ之ガ為ニ尽スベシ。而シテ手帳ニナリトモ自己ガ導カントスル数名ノ名前ヲ記シテ之ヲ覚エ置キ必ズ其人々ヲ導カズンバ止マザル決心ヲ以テ之ニ当ンコトヲ望ムト。余ガ心、之ガ為ニ大ニ動ケリ。必ズ之ヲ実行セズンバアルベカラズ。

七顛八起

二十六年一月九日

小崎氏ノ曰青年会、同盟会ノ如キ者起リテハ顛シ顛テハ又起ク、終ニハ失望シテ到底為スベカラズト云フ人モ多シ。然レトモ余ハ思フ、所謂七顛八起ノ諺ノ如ク從テ顛ルレバ從テ起スベキノミ、時ノ需用ニ応シテ少シナリト

モ益アリテ終レバソレニテ足レリ。人間万事ハ必シモ永久不変ノ見込ヲ定メテ後ニ之ヲ始ムルヲ要セス、時ニ因リ時ニ応ジ常ニ適當ノ方策ヲ講ズ即チ足レリト蓋シ名言ナリ。

日本魂ニ授洗スベシ

二十六年一月九日

川合信水君ノ曰從來甲州ニ伝道スル者其人甚ダ少シトセズ、而シテ其成效ヲ見ルコトノ少キ者ハ一ニ和魂ノ何者タルヲ知ル人ノ少キニ因スト。而シテ余ガ他日彼地ニ伝道センコトヲ熱勸セラル。

蓋シ所謂日本魂ハ日本正氣ノ光華ナリ。之ヲシテ能ク果実ヲ結バシムル者ハ基督教ナリ。二者何ノ相容レザル事カアラン、曰花ハ桜二人ハ武士、曰朝日ニ薫フ山桜ト此レ豈ニ和魂ノ真相ニアラズヤ。曰果ヲ結ブ枝ハ云々、曰樹ハ果ニ因テ知ラルト。此レ豈ニ基教ノ真面目ニアラズヤ。花ニ繼グ者ハ実ナリ。実ヲ得テ花モ其心ヲ安ンジ其分ヲ全フシ得ル者ト云フベシ。

日本魂ハ曰忠君 基督教ハ曰敬神

日本魂ハ曰高義 基督教ハ曰仁愛

日本魂ハ曰愛国 基督教ハ曰博愛

二者遂ニ相戾ル者ニハアラズ、却テ其度ニ於テ一段ノ進否ヲ見ルノミ。

伝道者若シ此ノ段ノ覚悟ナクンバ恐クハ空ク無氣無力ナル仏教信者の冥福之レ願ヒ、苟安之レ求ムルノ基督教徒ヲヤ作ラン氣慨アリ。精神アル活人物ヲ養成スルニ至リテハ蓋シ甚ダ覺束ナシト云フベシ。

願クハ日本魂ノ俠骨ニ授洗シテ所謂吉田松陰ニ授洗セル底ノ活人物ヲ生ミ、花ヲシテ実ヲ結ブノ因トナルニ至ラシメンコトヲ。

時間ノ利用

二十六年一月九日

余ハ唯一度此生涯ヲ通ルベシト思フ。故ニ若シ苟クモ同人ニ対シ現ハシ得ベキ好情又ハ為シ得ベキ善事アルニ遇ヘバ余ヲシテ或ハ之ヲ延バシ又ハ怠ルコトナク、今之ヲ

為サシメヨ。蓋シ余ハ復ビ此道ヲ通ラザルベシトハ此レ
クエカー教徒某ノ金戒ニアラズヤ。

「徒ラニ過ル月日ハ多ケレド、花見テ暮ラス春ゾ少キ」
トハ此レ風流文士ノ嘆息ニアラズヤ。

「徒ラニ過ル月日ハ多ケレド道ヲ求ムル時ゾ少キ」トハ
此レ修道自省ノ人士ガ自ラ責ムル語ニアラズヤ。

兎ニ角時間ヲ浪費スルコトノ多キハ事実ナリ。掩フベカ
ラザルノ事実ナリ。余輩ヲシテ今ヨリ此時間ヲ利用シ自
分ノ為ニ勉強ノ為ニ、運動ノ為ニ、伝道ノ為ニ、兎ニ角
可成大有益ナル動作ノ為ニ用ヒシメヨ。

触ル、所ヲ慎メ

二十六年一月十日

想起ス余ガ福音神学校ヲ去リテ新ニ京都ニ入ラントスル
ノ時、友人入江錦五郎君余ニ謂テ曰汚穢ニ捉ルコト勿レ、
請フ此一語ヲ以テ君ヲ送ルコトヲ得セシメヨト。

頃口徒然草ヲ讀ンテ「心ハ必ズ事ニ触レテ來ル」テフ語
ニ及ビ、陳思道ガ視千戈思闕視刀銘則思懼視廟社則思敬

視茅家則思安ノ語ヲ聞キ再ビ曩時友人ガ余ニ勸ムル所ノ
モノヲ想起セズンバアラス。

余ハ嘗テ淫猥ナル小説ヲ讀ンテ幾度カ淫ヲ思フノ情ヲ起
セリ、斯ノ如キハ触ル、所ヲ慎マザルノ一例、戒メザル
ベケンヤ。

余ハ嘗テ婦人ニ交リテ後、暫々不潔ノ念ヲ心ニ喚起セル
コトアリ、斯ノ如キハ余ガ心情ノ尚甚ダ潔カラザルガ為
ニ然ルノミ。左レハトテ交ヲ避ケテ孤居スルガ如キハ基
督教徒ノ所業ニアラス、宜ク打破リテ排シ去リテ又斯ノ
如キコトナキ迄ニ猛進セザルベカラズ。要スルニ汚ニ捉
ハラザルハ消極的ノ所業ナリト雖トモ之レ時ニ取りテハ
随分有益ナル修養ノ法トス。

若夫レ触ル、所ハ即チ吾人ニ幾分ノ影響ヲ及ボサズト云
フコトナキガ故ニ慎ミ戒メテ心スル所ナカルベカラス。

テニソン曰我ハ我ガ触ル、所ノ一部分ナリト。

レゾリユーシヨン

二十六年一月十日

西人年初ニ於テ必ズ「レゾリユーシヨン」テフコトヲナスト。是極テ面白キコトナリ。余モ亦試ニ是ニ「レゾリユーシヨン」ヲ試ン。

(一) 英学ニ今一層精力ヲ注ギ、他日目的ノ事項ニ付テ研究思慮スルニ於テ差支ナキノ準備ヲナサザルベカラズ。

(二) 今一層祈祷ヲ勉メ聖書ヲ読ムコトヲ勉メン。

(三) 校内伝道ニ心シテ必ズ二三ノ人ノ人々ヲ神ノ前ニ導カン。

(四) 今一層金錢ノ出納ニ注意シテ平民社会ノ真平民タル基ヲ築カン。

(五) 菓子其他不必用ノ間食ヲナスコトヲ戒メン。余カ之ガ為ニ従来幾度カ身心ヲ害シタレバナリ。

(六) 校内ノ諸規則ヲ明カニ守リテ背クナカランコトヲ勉メン。

労働者ヲ救フノ道

二十六年一月十日

余ハ先日來、終ニハ理髮師トナリテ労働者ノ友タルコトノ極テ宜ニ合フガ如キヲ感ゼリ。然レトモコハ主ノ導ノ儘ニ時ニ及ンテ決定セシメ玉フ所ナルベシト信ズ。而シテ理髮師アレ、活版屋アレ、兎ニ角一箇最モ余ト余ノ使命ヲナスニ適セル職業ヲ採ルノ後漸ク手ヲ広クベキ所ノ事業ハ、

曰教会ヲ組織シ日曜日ヲ以テ心静ニ神ヲ拝シ義ヲ思フノ場所トナスコトニアリ。

曰學術講演会ヲ開テ勞役者ニ切用ナル智識ヲ与フルコトニアリ。日曜日ノ夜之ニ當ツベシ。

曰小冊子ヲ發兌シテ花客ニ報ヒ宗教道德ト処世ノ方法トヲ弁明スルニアリ。

曰雜誌ヲ興シテ一方ニハ勞役者ノ智徳ヲ進メ一方ニハ勞役者ヲ代表シテ上中社会ノ人ニ対スルコトナリ。

曰禁酒会ヲ興シ娼娼論ヲ唱エテ社会殊ニ下等社会ヲ改良スルコトナリ。

曰撃劍、体操、音楽等ノ無邪氣ナル快樂ヲ供エテ淫猥ナル虚樂ヲ消スルコトナリ。日曜日ノ午後之ニ當ツベシ。曰書籍館ヲ作りテ快樂ト利益トヲ得ルノ道ヲ開クコトナリ。

曰夜学校ヲ作りテ正当ノ教育ヲ受ケ能ハザル児女子ノ智徳ヲ開發スルコトナリ。

此等ハ皆信用ヲ得ルニ随ヒ時機ノ到ルニ伴ヒ漸次着手スベキノ所トナス。

此外同業者ガ捧ル所ノ金品ヲ以テ老人孤児ノ為ニ尽シ貧窮ニシテ有望ナル青年ガ勉学ノ道ヲ開キ其他時ニ応シテ必用ナル事業尚数多アルベシ。

注意スベキ事業

二十六年一月十日

曰女髪結ナリ。之ヲ改良スルニハ有ナル教育アル一二婦人ノ献身ヲ要ス。而シテ之ヲ得タル上ハ成效決シテ尋常ナラズ。

曰貸本屋ナリ。同志ヲ得テ巧ニ之ヲ利用セシメンニ其裨

益如何ゾヤ。

曰寄席軍談師ナリ。奇警快活ナル同志者ヲ得、改革ノ精神ヲ抱テ之ヲ営マシム。洪益ナシトセンヤ。

曰新式茶店ナリ。新鮮ナル空氣ヲ以テ洋々タル無邪氣ナル休息所トナスコトナリ。

曰雇人口入所ナリ、確實ナル人物ヲ確實ナル雇主ニ紹介スルハ勿論大ニ廢人利用ノ道ヲ開ク。

嗚呼一年少書生ノ蜚氣樓！空中ノ樓閣！然レトモ其小児ハ終ニ大人ノ父タル如ク、滴水大海ヲナスガ如ク、皇天ノ手ハ或ハ年少書生ノ夢想空望ヲ實現セシメ玉フノ日ナシトセンヤ。

食後、御園ヲ漫步シテ更ニ按摩及諸種ノ行商ヲ利用シテ我輩ノ主義ヲ宣伝スルノ必用ヲ感ゼリ。

知識ノ分配

二十六年一月十日

シクタワ文学会ノ組織ニ倣エルモノトテ大坂ニ文学会ニテフ者ヲ起シ講義録ニ因テ勉学スルノ制度ヲ興シ居リタル

人々アリシ。

思フニ余輩モ亦他日此般ノ制度ヲ採リテ普通ノ実学ヲ下層ノ人々ニ分配シ、日々三十分乃至一時間宛ノ勉強ヲ奨励セバ豈ニ大ニ彼等ノ品性事業ニ影響ナシトセシヤ。

スマイルス曰人毎日一時ノ間緊要ナラザル事ヲ息メ去リテ之ヲ利益アル様ニ用ヒナバ平常ノ資性ノ人ト雖、必ズ一学科ニ長ズルコトヲ得ベシ。又曰毎日一時宛勉強シ積ンテ十年ニ至ラバ愚昧ノ人化エテ聰明ノ人トナルベシト。

伝道心ノ復興

二十六年一月十一日

曾テ非常ニ伝道心ノ炎上シタル時代アリ（余ノ一身ニ取リテ）、當時余ハヨルト捉^カハルト伝道セズト云フコトナク甚シキハ同級生ニ向フテ説教ヲナセリ。而シテ當時ノ勇氣今果シテ何処ニカアル。

一ハ未来ノ賞罰、天国地獄ニ付テノ觀念ノ大ニ変ズル所アリシニ因リ、一ハ其結果トシテ自家ノ品性ノ先ツ省ミ

ザルベカラズ徳行ノ先ツ養ハザルベカラザルヲ感シ出シタルニ因リ、何時シカ盲人、蛇ニ恐レザル昼ノ盲進ヲ止ムルニ至リシ者ニヤアラン。

然リ神学上ノ觀念ノ進歩スルヤ好シ、自修鍛鍊ノ必用ヲ認ムルヤ好シ。然レトモ之ヲ認メタルノミニテ、空理空論ノ進ミタルノミニテ実行ノ之ニ伴ハザルアリ。義ヲ愛スルノ心ハ未来ヲ樂メル当年ノ喜ニ及バス、罪ヲ惡ムノ心ハ当年地獄ヲ恐ル、ノ心ニ如カス。遂ニ何時迄モ活氣ナク熱火ナキノ人タルニ終ラバ果シテ余ノ生涯ハ幸カ不幸カ。

今ハ伝道心ヲ復興スベキノ時ナリ。敬虔ノ念ニ励マサレ、謹嚴ノ思ニ刺激セラレ義ヲ慕ヒ愛ヲ好ムノ情ニ驅ラレ機ヲ見テ神ヲ証スルヲ勉メザルベカラザルノ時代トナレリ。願クハ新ナル信仰ノ上ニ旧時ニ倍スルノ活火ヲ得ン。

新預言者

二十六年一月十一日

曰エリヤ、曰エレミヤ、曰エリシヤ、曰イザヤ、曰ダニ

エル、此豈ニ古昔猶太國ニ顯現シタル予言者ノ類ニアラズヤ。

予言者トハ何ゾヤ。湯淺氏曰、予言者トハ「見テ言フ者」ヲ意味スト。彼等或ハ歴史上ノ事實ヲ見テ之ヲ追論スルコトアリ。或ハ社会上ノ出来事ヲ觀シテ之ヲ痛論スルコトアリ。或ハ過去或ハ現在或ハ未來、艱メル者ヲ慰メ高ブル者ヲ戒メ王ニ説キ民ニ諭シ其為ス所固ヨリ一二種類ニ止マラズト雖、要スルニ自ラ神ノ人トナリ、至上者ヲ代表スルヲ信ジ、至上者ノ使命ヲ受ケテ働クコトヲ信ジ、所謂、天無楮墨天無口、人代天言代天筆ト云フガ如キヲ以テ基本領真髓トナシタリシコトハ疑フベカラザルノ事實ナリトス。

然シテ彼等ガ此種代天的信仰事業ガ如何ニ人類ヲ益シ、社会ヲ利シタルカハ、今更言フ迄モナキ所ナリトス。

是ニ至リテ余輩ハ彼等ガ過去ニ於ケル幾多ノ事業效績ヲ察スルト同時ニ更ニ今後ニ於テ顯レ來ルベキ一種ノ新予言者アルベク、又ナカルベルラザルヲ正念予想セズンバアラズ。

如何ナル者ゾ、所謂新予言者トハ。

其剛毅ナル、其敬虔ナル、其熱実ナル、其必死ナル、皆古昔ノ予言者ニ異ル所ナシ。唯一点ニ者ノ相異ル所ハ、彼ハ至上者ノ言ハント欲スル所ヲ測リテ之ヲ述ベ、此ハ人民ノ言ハント欲スル所ヲ察シテ之ヲ訴エ、彼ハ皇天ノ秘旨ヲ揣摩シテ之ヲ論シ、此ハ茅屋ノ民ノ胸臆ヲ量リテ之ヲ説ク。

古昔ノ予言者ニ因リテ、神ノ主タリ父タルコトハ証シセラレタリ。新予言者ハ更ニ人間ノ僕タリ子タルコトヲ實際ニ現ハサシメザルベカラザルナリ。

之ガ為ニハ下層ノ人々ノ為ニ、其苦難ノ因テ來ル所、其不徳ノ因テ起ル所ヲ察シテ、之ヲ排シ之ヲ除カザルベカラズ。上流ノ人々ニ向フテ、其安逸ヲ戒メ、放肆ヲ警メテ平等一和ノ新天地、何人ノ頭上ニモ只皇天アルノミナル新王国ヲ建設セラルベカラズ。人民ノ大監察ト呼バレタル如温武雷土ノ如キハ、余ガ此新予言者ノ一模型タルニ恥ヂズ。

約言スレバ、舊予言者ハ天ニ代テ言ヒ行ヒ務メ、

新予言者ハ民ニ代テ言ヒ行ヒ勉ムト云フニ外ナラズ。

雜感

二十六年一月十一日

旧日本ニ於テハ獨リ貴族ノ貴族のナリシノミナラズ平民モ亦貴族のニテアリシナリ。而シテ最モ善ク貴族の平民ヲ代表スル者我紀文大盡ニ於テ之ヲ見ル。

才子ト道德家ノ隔絶スルガ為ニ浮世才子、世智助ヲ生ズルコトノ多キハ尚学者ト宗教家ノ相隔絶セルガ為ニ古來幾多ノ無神論者ヲ生シタルガ如シ。而シテ前者ノ好適例ハ我平賀源内ニ於テ之ヲ見ル。

今後ノ社会ニハ「平凡ノ偉人」踵ヲ繼テ踵ハルベキナリ。

平凡ノ偉人トハ何ゾヤ、攻城野戰ノ活劇ヲナサズ、拔山蓋世ノ技量ヲ揮ハズ、一日又一日循々トシテ職分ノ大歩ヲ曠歩ス。之ヲ一日見ルニ何ノ秀ル所ナシ、之ヲ一月ニ徴スルニ何ノ異ル所ナシ、之ヲ一年ニ察スレバ稍人ニ過ルモノアリ、之ヲ十年ニ觀、之ヲ生涯ニ觀ズレバ嗚呼吾人ハ其唯天ノ階ニテ昇ルベカラザルガ如キヲ見ルノミ。

新島先生ノ如キ是ナリ。富蘭克林ノ如キ是ナリ。

孔子曰十室之邑必ズ忠信丘ガ如キ者アラント。基督曰邑ニ入ラバ其好人ヲ尋テ之ト共ニ居レト。邑中ノ好人物、嶄然トシテ頭角ヲ其同業者其用輩間ニ現ハスノ人、此人コソ最モ多ク其社会無冠ノ帝王タルノ人物ナレ。而シテ其社会ノ教化ハ多ク此種ノ人物ヲ通ジテ来ル。

西郷南洲ノ詩ニ曰、幾經辛酸志始堅ト若シ俗士ヲシテ此句ヲ綴ラシメバ或ハ謂テ志愈堅トヤ云ハン、志増堅トヤ云ハン、志尚堅トヤ云ハン、而シテ南洲ハ直ニ志始堅ト云フ丈夫ノ心事大ニ是ニ顯ハルト云フベシ。

生財有大道

二十六年一月十三日

宗教道德ヲ以テ實際ノ人事ニ懸ケ離レタル者トナシ、厭世的トナリ、仙人的トナリ、潔癖的トナリ、麤豪的トナリ、終ニハ全ク金錢理財ノコトト相容レザルノミナラズ、相仇敵視スルニ至ル宗教家ノ誤ナリ。金錢理財ノコトヲ以テ宗教道德ノ外事トナシ、人ヲ倒シ他ヲ害ヒ詐欺ヲナ

シ邦計ヲ企テ姦策ヲ建テ虚妄ヲナシ終ニハ全然不徳不義ノ小才子タルニ終ル、俗人ノ罪ナリ。

固ヨリ今ノ金錢ノ社会ト雖、亦大ニ徳義ヲ要求セザルニアラズ、見ヨ何故ニ信用ハ商人タルノ第一資格ト認メラレタルカ、信用ナキ者ハ世人ノ擯斥スル所トナルカ、是豈ニ彼等ガ尚大ニ宗教道德ノ必用ヲ認ムルモノニアラズシテ何ゾヤ。

豈ニ唯是レノミナランヤ。彼ノ消極的ニ安逸ヲ避ケ、奢侈ヲ戒メ浪費ヲ退ルガ如キ積極的ニ勤勉シ節儉シ貯蓄スルガ如キ皆大ニ其間ニ幾多ノ自制心克己心ヲ要スル者ニアラズヤ。

余輩ハ天父因果応報ノ政治ヲ信ジ、人ノ為ニ利用厚生ノ道ヲ建ルコトノ自己使命タルヲ信ジ、勤勉トナリ克己トナリ独立自治トナリ堅忍不拔トナルコトノ大ニ理財ノ上ニ必用ナルヲ見ル。未ダ其有害ナル所以ヲ解スル能ハズ。誰カ宗教道德ト金錢理財ト相容レスト云フ。二者ハ相待テ決シテ離ルベカラザルモノニアラズヤ。語ニ曰生財有大道ト余輩ハ其言ノ真実ナルヲ信ゼズンバアラス。